

# 幼児のかな文字の習得過程

野呂 アイ

(尚絅学院短期大学)

## 問題と目的

今日、就学前の幼児が、おとなからの何らかの指導によって、かな文字(ここでは「ひらがな」を扱う)読みの能力を得ていることは、本学会でも数多く報告されている。だが、文字の習得の過程がどのようなものであるかは、必ずしも十分明らかにされていない。筆者は、先に文字の学習の機会と密接な関係にある絵読による想像と、文字の読み能力との関係を明らかにするための一実験を試みてきた<sup>(1)</sup>。つまり、そこから幼児の読字力と想像力との間には、さまざまなタイプの関係がみられ、しかもこれらのタイプは、同一年令群に共存してただけでなく、年令的にも発達的な特徴をもっていること、すなわち、年少幼児ほど読字力の低水準の若く想像力においても低水準であり、年長幼児ほど両者は、高水準において相関をもつことがわかった。それ故、文字を習得する過程で、想像や精神機能の発達を妨げないで学習可能な、概算的な年令があるのではないかと予想される。それはもちろん、指導のあり方によって条件づけられるのであるが、今回は、時間的経過においてどのような読みの習得過程をたどるのか、実験を明らかにすることが目的である。

## 方法

(1) 調査対象：仙台市内の一幼稚園児、年長組(5, 6才児)42名、年中組(4, 5才児)32名、計74名。

(2) 調査内容：ひらがなの読み方について、国立国語研究所「就学前児童の言語能力に関する全国調査」(1967) Iに使用された「調査文字カード」にならって作成したカードにより、個別に調査した。すなわち、清音・撥音46文字、濁音20字、半濁音5字計71文字を3字一組に無作為に組み合わせて、1枚のカードに記入されてある。特殊音節については、初音6題、促音3題、長音8題、撥音6題と助詞4題が与えられた。71文字のうち40字以上正しく読んだものに対して行なった。誤答の場合も訂正せず、次へ進んだ。

(3) 期間：1978年5月～6月(1回目)、9～10月(2回目)、79年2月(3回目)の3回、4～5ヶ月の間隔を置いて実施した。同一被験者で追跡調査した。

## 結果と考察

Table 1 およびFig. 1より、3回の調査を通し、年長、年中ともに、平均して読字力では男児の方が女児より高い。しかし、読字数は回を重ねるとともに全体的にふえ、同時に、半濁音以外は男女児の読字数は接近している。時間的に最も隔っている1回目と3回目では、年中男児を除いて読字数に統計上の(5検定)有意差がみられる。とくに年中女児のものが目立つ。

またSDは年長児が年少児より全体的に小さく、とくに3回目はいずれの年令でも最も小さいが、年長児において一層顕著である。つまり年長児で

Table 1 年令別・男女別 平均読字数・SDの推移

|    | 清音+ん(46字)       |      |                  |      |               |      | 濁音(20字) |     |             |     |             |     | 半濁音(5字)    |     |            |     |            |     | 計(71字)     |      |             |      |            |      |
|----|-----------------|------|------------------|------|---------------|------|---------|-----|-------------|-----|-------------|-----|------------|-----|------------|-----|------------|-----|------------|------|-------------|------|------------|------|
|    | 1回目<br>(78.5-6) |      | 2回目<br>(78.9-10) |      | 3回目<br>(79.2) |      | 1回目     |     | 2回目         |     | 3回目         |     | 1回目        |     | 2回目        |     | 3回目        |     | 1回目        |      | 2回目         |      | 3回目        |      |
|    | M               | SD   | M                | SD   | M             | SD   | M       | SD  | M           | SD  | M           | SD  | M          | SD  | M          | SD  | M          | SD  | M          | SD   | M           | SD   | M          | SD   |
| 年長 | 39.2            | 12.4 | 42.5             | 8.8  | 45.2          | 9.2  | 15.4    | 7.5 | 17.6        | 5.5 | 19.0        | 1.8 | 3.4        | 1.9 | 4.2        | 1.3 | 4.5        | 1.1 | 58.1       | 21.5 | 64.3        | 14.2 | 68.7       | 3.4  |
|    |                 |      | $P < 0.05$       |      |               |      |         |     | $P < 0.05$  |     |             |     | $P < 0.05$ |     |            |     | $P < 0.05$ |     |            |      | $P < 0.05$  |      |            |      |
| 年中 | 37.7            | 15.6 | 42.3             | 9.1  | 45.4          | 1.1  | 14.6    | 7.6 | 14.7        | 6.6 | 18.0        | 1.7 | 2.7        | 1.9 | 3.5        | 1.7 | 4.0        | 1.5 | 55.1       | 24.1 | 60.5        | 16.2 | 68.3       | 3.3  |
|    |                 |      | $P < 0.05$       |      |               |      |         |     | $P < 0.01$  |     | $P < 0.01$  |     |            |     | $P < 0.02$ |     |            |     | $P < 0.02$ |      |             |      | $P < 0.05$ |      |
| 年少 | 34.4            | 19.1 | 40.0             | 17.1 | 41.0          | 10.8 | 13.2    | 9.5 | 13.7        | 8.9 | 14.4        | 8.4 | 2.9        | 2.1 | 2.5        | 2.3 | 3.4        | 2.2 | 50.5       | 29.1 | 51.2        | 29.4 | 58.8       | 19.3 |
|    |                 |      |                  |      |               |      |         |     |             |     |             |     |            |     |            |     |            |     |            |      |             |      |            |      |
| 年少 | 19.8            | 18.1 | 28.5             | 16.2 | 40.4          | 10.9 | 4.9     | 7.3 | 6.6         | 7.1 | 14.4        | 7.0 | 0.9        | 1.6 | 1.2        | 1.7 | 2.4        | 1.9 | 26.0       | 25.8 | 36.4        | 23.4 | 57.2       | 19.1 |
|    |                 |      |                  |      |               |      |         |     | $P < 0.001$ |     | $P < 0.001$ |     |            |     | $P < 0.02$ |     |            |     |            |      | $P < 0.001$ |      | $P < 0.01$ |      |

は、71文字に関して、3回目の2月の時点では読める幼児と読めない幼児との格差がほとんどなくなっていることがわかる。

内容的にみると、半濁音に対して全体的に低い読字傾向がみられるが、年少児は2回目に、逆に読字数が減るという不安定な習得状態を示している。平均的にはいずれの年齢クラスでも、冬休みあけの3回目の調査結果にのびが現われたが、それでは、時間的経過とともに、読み能力水準別の正答率の分布の変化を、Fig 2 (1)~(4) からみていく。年長児の場合、1・2回目の傾向は比べて、3回目の分布は明らかに異なる。60文字~71字への集中から特殊音節の1~2種マスターを含む水準への集中に移っている。二学期から音節分解、抽出を中心とした組織的な文字指導の影響が、3回目の結果に現われたのと考えられる。指導のない年中児の場合は、各水準の漸次的増加という形を示していることがわかった。

(註)野呂P: 幼児のかた文字読み能力と想像, 戦後心理学研究, 1979.3

Fig. 1 かた文字読み正答率の推移

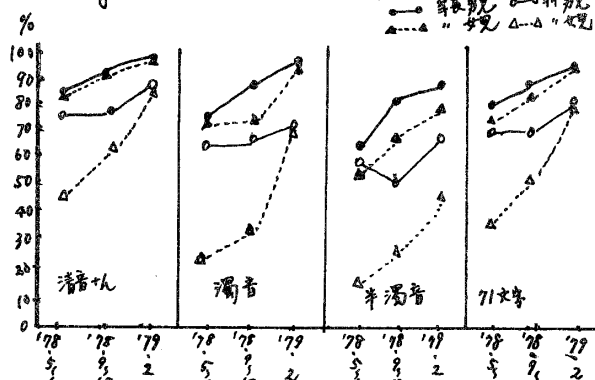


Fig 2-(1) 正答率の累積—年長男児

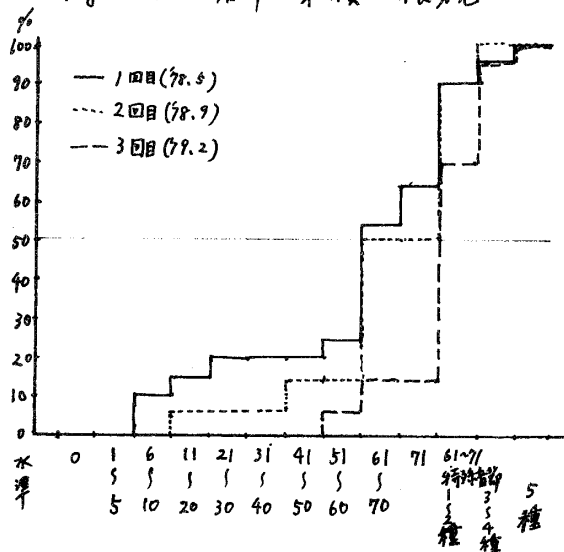


Fig 2-(2) 正答率の累積—年長女児

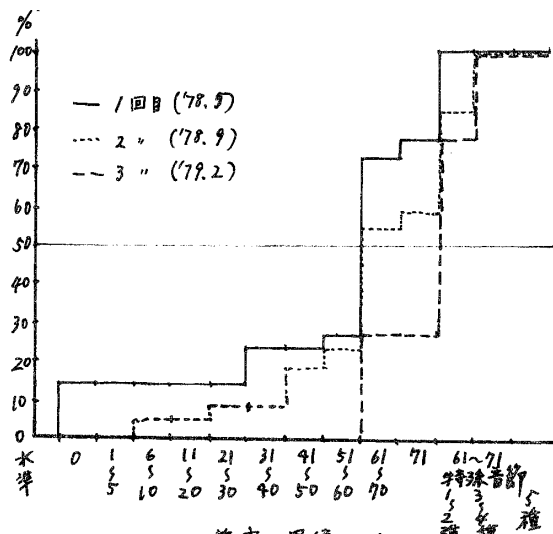


Fig 2-(3) 正答率の累積—年中男児

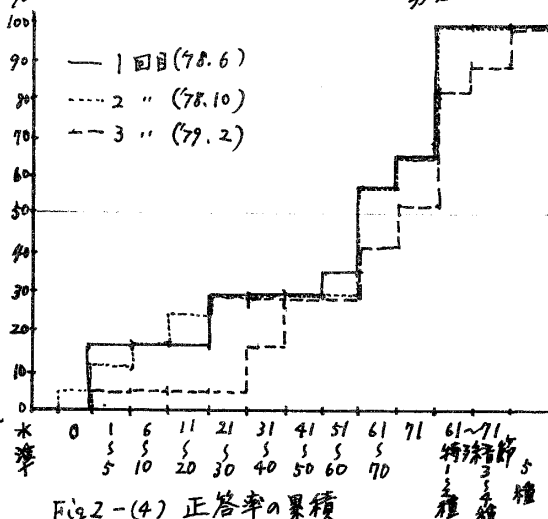


Fig 2-(4) 正答率の累積—年中女児

